

はじめに

太平洋に臨む苫小牧市は、国際拠点港湾の「苫小牧港」と北海道の玄関である「新千歳空港」のダブルポートを擁し、鉄道、国道、高速自動車道などの交通のアクセスに恵まれた、北海道経済発展の大きな役割を担う産業拠点都市として発展を続けています。

一方で、樽前山麓の広大な森林や、ラムサール条約湿地に指定されるウトナイ湖など、自然豊かな環境を誇っています。この豊かな自然と調和した、快適な生活環境の中で、共に生き生きと心豊かに暮らしながら、全ての市民が持てる能力で社会に貢献し、未来に向かって挑戦し続けるまち「人間環境都市」を目指してまちづくりを進めています。

本市の人口は、これまで市政の進展とともに増加を続けてきましたが、国勢調査の結果では平成22年をピークに減少に転じています。この傾向は今後も続くものと推計されていることから、本市における人口減少と少子高齢化の流れは一層顕著になっていくものと思われま

す。人口減少時代においても、未来に向かって挑戦し続けるまちを目指す理念の下、持続可能な循環型社会を構築するために、これまでの「大量生産・大量消費・大量廃棄」社会からの転換を図り、さらにごみ減量と資源の有効活用を促進し、廃棄物処理に限らず、環境保全及び自然保護等も考慮した、総合的視点からの取組が求められています。

このような状況の下、本市においては、平成22年に策定した「苫小牧市一般廃棄物処理基本計画」を基に、従来からの清掃事業活動に加え、リサイクル事業の充実、ごみ焼却炉・埋立処分場の整備等を長期的視点に立ち取組を進めてまいりました。その後、同計画を平成28年3月に改定し、更なるごみの減量・資源化を強力に推し進め、同計画の基本理念である「053（ゼロごみ）のまち とまこまい」の実現を目指しています。

令和元年度は、市民の皆様のご協力により、ごみの総排出量が5万6,493トン、家庭ごみ1人1日当たりの排出量が550グラムとなりました。今後も引き続き、「053（ゼロごみ）のまち とまこまい」の実現に向けて、ごみの減量とリサイクルの推進に対して、市民、事業者、行政が一体となり、資源循環型社会の形成を目指してまいります。

本年はコロナ禍によりごみの排出に大きな影響が表れています。在宅率の高まりから家庭ごみが増加する一方で、経済の低迷により事業系ごみが減少しており、今後は状況の分析と対応が必要になると考えています。なお、コロナ禍が長期化している現状においても、常に感染リスクのある中、ごみ収集作業に当たっていただいている事業者の従業員の皆さんには感謝を申し上げますとともに、今後も市民の皆さん及び事業者の皆さんの一層の御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

ここに本市清掃事業の概要を収録いたしましたので、参考資料としてご活用いただければ幸いです。

令和2年12月

環境衛生部長 町田 雅人